

第4章 若者のソーシャル・ネットワークと就業・意識

1. はじめに

本章では、若者のソーシャル・ネットワーク（相談ネットワーク）に注目し、その実態について就業状況との関連を中心に検討するとともに、ネットワークのあり方が意識（特に、結婚に関する意識）を規定している可能性について考察する。

本調査研究は若者の包括的な移行の実態をさぐることを目的としている。つまり、学校から職業への移行過程それ自体に特に焦点を合わせるというよりも、より「包括的」に、つまり領域横断的かつ対象を全域的にカバーして問題を把握することが意図されている（序章参照）。そのための試みの一つが、ソーシャル・ネットワークへの注目である。上述のような包括的な把握をめざす上で、若者のソーシャル・ネットワークに注目することは、就業という側面にとどまらずに、若者が生きる“世界”のあり方をより全域的かつ具体的な形で切り出すことを可能にすると考えられる。なお、若者が取り結んでいる社会関係は多様なものであるが、ここでは特に自らの悩みを相談する相手を取り上げる。つまり、ここでソーシャル・ネットワークという表現で想定しているのは、若者の多様なパーソナル・ネットワークのうちの相談ネットワークである。

本章で具体的に試みるのは、次の二点である。第一に、若者の相談ネットワークについての調査結果を概観しつつ、特に就業状況と相談ネットワークのあり方の関連について検討することである。具体的には、非典型雇用であることや失業・無職であることが、相談ネットワークのあり方をどう規定している／いないのかについて探ることになる。第二に、相談ネットワークのあり方と、若者の意識のあり方の関連について検討することである。具体的には、特に独身者の結婚に関する意識を取り上げ、相談ネットワークのあり方によって結婚への志向が規定されている可能性について考える。

一つ目の点を検討する理由は、いわゆるフリーターやニートへの関心が高まり、若者の就業への移行過程に関心が向けられる中で、若者のソーシャル・ネットワークのあり方も注目されるようになってきたにもかかわらず、そのような観点からの考察が十分なされているとはいえないからである。特に、スムーズに移行できなかった若者に関して、彼ら／彼女らがどのようなソーシャル・ネットワークを有している／いないのかについて知ることは、具体的な支援の方策を考える上でも重要であろう¹。

¹ フリーターやニートについて、そのソーシャル・ネットワークのあり方の特徴（の仮説）が言及される早い例としては、玄田（2002）や玄田・曲沼（2004: 44-48）がある。具体的なデータに基づく研究としては、移行期に困難に直面した若者へのインタビューに基づいた沖田（2004）や堀（2004）、「社会的排除」層にとってのローカルなネットワークの意味を考察した内田（2005）が挙げられる。また、計量的なデータから、ソーシャル・ネットワークと若者の進路・就業の関係を検討した例は、樋口（2005）・堀（2006）・内田（2006）がある。特に内田（2006）は、高校生への調査データから、フリーターを高卒後の進路として展望する層の周囲の人間関係を分析している示唆的な研究であるが、それに対して本章は、既に学校を離れた者のデータから、就業状況（特に非典型雇用であること）

二つ目の点を検討するのは、少子化の進展の背景の一つとして晩婚化・未婚化が注目される中で、若者の結婚行動や結婚に関する意識をめぐって考察の蓄積が求められているからである。既に近年、若者の不安定雇用の増大が結婚行動に影響している可能性を指摘する研究が相次いで発表されている²。非典型雇用であることが結婚時期を遅らせていると聞くと、結婚をためらわせる背景として所得の低さが想起されるかもしれないが、それだけではなく、非典型雇用であることによって周囲の人間関係の広さ／狭さなどが影響を受けること、そしてそのことゆえに結婚に関する意識も規定されることも考えられる。だとすれば、個々の若者のソーシャル・ネットワークの具体的なあり方が、結婚に関する意識を規定している可能性もあるのではないだろうか³。

以上のような考えから、本章では、「就業状況」→「ネットワーク」→「意識」という関連性の有無について、18歳から29歳の若者に関する調査データ⁴に基づいて考察を行うこととする。

2. 質問項目の設計

議論に進む前に、相談ネットワークの情報を得るために用いた質問項目についてふれておくことにしよう。

質問文は、「あなたは現在、a～dのことについて悩みを持っていますか。もし悩みを持っている場合には相談する相手について、あてはまる番号すべてに○をつけて下さい」というものであり、「a 今の自分の仕事や働き方について」「b これからの生き方や働き方について」「c 人間関係について」「d 経済的な問題（お金のこと）について」のそれぞれについて、相談する相手を複数回答で選んでもらうという形である。選択肢は、「悩みはない」「親・保護者」「兄弟姉妹」「職場やバイト先の上司」「職場やバイト先の友人・同僚」「学校で知り合った友人」「学校の先生・職員・相談員」「趣味をともにする友人」「恋人・配偶者」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」である。

この質問項目は、若者のソーシャル・ネットワークのうち、相談ネットワークの状況を把握するためのものである。これによって悩みがある場合の相談相手の選択状況がわかり、かつ複数回答にしているため、相談相手の具体的な広がりや相談チャンネルの多様性について

とソーシャル・ネットワークの関連について分析を試みるものである。

² 非典型雇用化が結婚時期の遅れをもたらしている可能性を指摘するものとして、永瀬（2002）、樋口・酒井（2004）、酒井・樋口（2005）、酒井・岩松（2005）などがある。

³ 野沢（2005）は、単に出会いの機会に限らず、結婚というものは二人の個人だけに限られる事柄ではなく、ネットワーク内に立ち現れる社会的な現象であると述べて、結婚がネットワーク的な現象であることを指摘している。

⁴ 2006年2月に労働政策研究・研修機構によって実施された、東京都（島嶼部を除く）の18～29歳の男女2000人（正規課程の学生、専業主婦を除く）を対象とする、「第2回 若者のワークスタイル調査」のデータ（以下で検討する相談ネットワーク関連の質問項目は第1回調査には含まれていないため、第2回調査のデータのみを対象とする）。詳細は序章を参照のこと。

もとらえることができる。ただし、調査票の紙幅の関係もあり、残念ながら相談ネットワークの規模（人数）や連絡頻度、複数の相談相手間の密度など、ネットワークそのものの特性について踏み込んでたずねることはできなかった。そのこともあって、本章は記述統計的な分析が中心となっていることをあらかじめ述べておく。

3. 相談ネットワークの状況

相談ネットワークの状況を、具体的にみていくことにしよう。

図表 4-1 「悩みがある」と回答した人の割合（%）

	全体	男性	女性	n(人:男性)	n(人:女性)	
今の自分の仕事や働き方について	60.1	55.9	64.7	1038	962	p<.001
これからの生き方や働き方について	69.2	64.6	74.1	1038	962	p<.001
人間関係について	56.6	48.7	65.1	1035	958	p<.001
経済的な問題(お金のこと)について	62.9	59.6	66.4	1038	962	p<.001

まず相談ネットワークの前提となる悩みの有無についてである（図表 4-1）。a~d の 4 つの悩み（以下、順に「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」「経済的問題」とする）について「悩みがある」と回答した人の割合は、それぞれ男性で 55.9%、64.6%、48.7%、59.6% であり、女性で 64.7%、74.1%、65.1%、66.4% であった。4 つの悩みのいずれについても、全体では過半数の人が「悩みがある」と回答しており、また男性より女性の方が悩みのある人が有意に多くなっている。

図表 4-2 「悩みがある」と回答した人の割合：配偶状態別（%）

		無配偶	有配偶	n(人:無配偶)	n(人:有配偶)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	54.6	62.4	865	173	p<.1
	女性	66.6	52.3	830	132	p<.01
これからの生き方や働き方について	男性	63.7	69.4	865	173	n.s.
	女性	75.8	63.6	830	132	p<.01
人間関係について	男性	47.8	53.2	862	173	n.s.
	女性	66.7	55.3	826	132	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	56.6	74.6	865	173	p<.001
	女性	65.3	73.5	830	132	p<.1

男女それぞれについて配偶状態別にみると⁵（図表 4-2）、男性の場合、「今の仕事」と「経済的問題」で有配偶の方が悩みのある人が有意に多く、他の 2 つでも有意差はないものの

⁵ この調査では、未婚の人と離別・死別して現在独身の人の区別ができないため、ここでは既婚／未婚ではなく有配偶／無配偶という表現を用いる。

有配偶者の方が多い。女性の場合、「経済的な問題」のみで有配偶者の方が悩みのある人が多く、他の3つの悩みについては無配偶の方が多い（いずれも有意）。次に、男女それぞれについて現職の就業状況（従業上の地位）による差を調べると（図表4-3）、有意差が検出されたものは男性の「人間関係」の悩みだけだが、「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」はいずれも男女とも正社員（公務員含む）と失業・無業で悩みがある人の割合が高く、パートや契約社員などがそれらよりも特に高い割合になるということにはなかった。「経済的な問題」は若干傾向が異なるものの、4つの悩みのいずれについても、特に非典型雇用（パート・契約社員など）であるからといって悩みのある人の割合が大きくなるという傾向はうかがえなかった。

図表4-3 「悩みがある」と回答した人の割合：現在の就業状況別（%）

		正社員	パート・契約	自営	失業・無業	n(人:正社員)	n(人:パート・契約)	n(人:自営)	n(人:失業・無業)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	57.7	52.8	54.3	58.7	572	343	70	46	n.s.
	女性	67.3	61.6	55.6	73.3	443	448	18	45	n.s.
これからの生き方や働き方について	男性	64.9	64.1	58.6	73.9	572	343	70	46	n.s.
	女性	74.7	73.4	61.1	82.2	443	448	18	45	n.s.
人間関係について	男性	53.1	44.0	37.1	47.8	571	341	70	46	p<.05
	女性	67.5	63.1	61.1	66.7	440	447	18	45	n.s.
経済的な問題(お金のこと)について	男性	59.3	59.8	60.0	60.9	572	343	70	46	n.s.
	女性	63.0	69.0	61.1	75.6	443	448	18	45	n.s.

注)表中の「正社員」は「正社員(公務員を含む)」、「パート・契約」は「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」をそれぞれ略記したもの(以下の表も同じ)。

最後に、学歴別にみた場合、男性では4つの悩みのいずれも学歴間に有意差がみられず、女性では「これからの生き方」「人間関係」「経済的な問題」で有意差が検出された（図表4-4）。その多くで、「高等教育中退」や「大学・大学院卒」で悩みのある人の割合が高くなっている。

図表4-4 「悩みがある」と回答した人の割合：学歴別（%）

		高卒	専門卒	短大・高専卒	大学・大学院卒	中卒・高校中退	高等教育中退	
今の自分の仕事や働き方について	男性	55.4	55.4	39.1	58.0	54.7	59.0	n.s.
	女性	62.1	61.8	66.5	69.7	56.5	75.6	n.s.
これからの生き方や働き方について	男性	63.8	65.8	56.5	64.7	65.3	68.9	n.s.
	女性	70.2	71.9	73.9	81.7	68.1	82.9	p<.05
人間関係について	男性	48.0	47.7	26.1	51.6	47.9	52.5	n.s.
	女性	62.3	62.8	67.5	70.4	53.6	78.0	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	61.2	63.2	56.5	54.1	56.8	70.5	n.s.
	女性	66.3	69.3	63.4	62.5	65.2	85.4	p<.10
		n(人:高卒)	n(人:専門卒)	n(人:短大・高専卒)	n(人:大学・大学院卒)	n(人:中卒・高校中退)	n(人:高等教育中退)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	381	193	23	283	95	61	
	女性	282	199	161	208	69	41	
これからの生き方や働き方について	男性	381	193	23	283	95	61	
	女性	282	199	161	208	69	41	
人間関係について	男性	379	193	23	283	94	61	
	女性	281	199	160	206	69	41	
経済的な問題(お金のこと)について	男性	381	193	23	283	95	61	
	女性	282	199	161	208	69	41	

次に、悩みのある人の相談ネットワークについて、具体的な検討を行う。

まず、4つの悩みそれぞれについて、誰を相談相手として選んでいるかを概観する（図表4-5）。全体として、相談相手として選ばれているのは家族関係・職場関係・友人・配偶者などにほぼ集約されており、それ以外の立場（「学校の先生・職員・相談員」や「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」）の比重は非常に小さくなっている。男女別にみると、4つの悩みに共通するのは、「親・保護者」「兄弟姉妹」「恋人・配偶者」を選ぶ割合は女性の方が男性よりも有意に高く、「職場やバイト先の上司」「誰もいない」を選ぶ割合は男性の方が女性よりも有意に高いという点である。また、「今の仕事」「これからの生き方」では職場関係の人が選ばれているが、「経済的問題」では職場関係よりも「親・保護者」を選ぶ人が多い、という大まかな傾向もうかがえる。

図表4-5 悩みの相談相手の選択割合（%）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男性	32.1	11.2	29.3	38.3	31.0	1.7	21.2	26.4	0.9	4.0	4.0	580
	女性	48.6***	18.6***	21.5**	48.1**	39.9**	3.5#	24.4	37.8***	1.1	5.1	2.1#	622
これからの生き方や働き方について	男性	35.8	10.1	19.4	26.5	30.7	1.2	25.2	28.2	1.0	4.8	4.3	671
	女性	50.1***	18.5***	11.1***	29.6	41.0***	2.2	24.7	39.8***	1.4	5.5	2.2*	713
人間関係について	男性	17.9	9.3	18.3	32.3	35.5	0.6	25.4	26.8	0.4	3.4	5.0	504
	女性	34.9***	15.4**	13.5*	34.5	44.9**	1.0	25.5	37.0***	1.0	4.0	2.9#	624
経済的な問題(お金のこと)について	男性	53.8	9.7	10.0	14.5	12.8	0.6	12.8	28.4	0.0	4.2	6.8	619
	女性	64.5***	13.8*	4.2***	12.8	15.8	0.5	11.9	35.4**	0.6	3.4	4.5#	639

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10

続いて、相談相手の選択状況を、男女それぞれについて配偶状態別に検討する（図表4-6）。4つの悩みのほとんどに共通するのは、男女とも無配偶者に比べて有配偶者では、「親・保護者」「学校で知り合った友人」を選ぶ割合が低く、「恋人・配偶者」を選ぶ割合が、有配偶者でより高くなっている。結婚に伴い、配偶者が男女ともさまざまな悩みの相談相手として大きな比重を占めるようになってきていること（それに対応して、職場関係はそれほど変わらないが、親や学校時代の友人の比重は下がっていること）がわかる。例外も若干あるものの、「恋人・配偶者」以外が選ばれる割合がどの悩みについても有配偶者は無配偶者よりおおむね低く、相談内容によらず、有配偶になると相談相手が配偶者に集中する傾向があることがわかる。

図表 4-6 悩みの相談相手の選択割合：配偶状態別 (%)

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバ イト先の上 司	職場やバ イト先の友 人・同僚	学校で知り 合った友 人	学校の先 生・職員・ 相談員	趣味をとも にする友 人	恋人・配偶 者	専門家や 公的な支 援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方 について	男・無配偶	35.4	12.5	29.7	38.1	35.8	1.9	23.9	18.9	1.1	3.6	4.4	472
	男・有配偶	17.6	5.6	27.8	38.9	10.2	0.9	9.3	59.3	0.0	5.6	1.9	108
	女・無配偶	49.7	18.3	21.5	49.0	43.0	3.8	25.7	34.0	1.1	4.9	2.2	553
	女・有配偶	39.1	21.7	21.7	40.6	14.5	1.4	14.5	68.1	1.4	7.2	1.4	69
これからの生き方や働き方 について	男・無配偶	39.9	11.6	20.0	27.4	35.0	1.3	27.4	19.1	1.3	4.7	4.7	552
	男・有配偶	16.7	3.3	16.7	22.5	10.8	0.8	15.0	70.0	0.0	5.0	2.5	120
	女・無配偶	50.6	19.2	11.4	30.8	44.2	2.4	25.8	35.5	1.4	4.9	2.5	629
	女・有配偶	46.4	13.1	8.3	20.2	16.7	1.2	16.7	72.6	1.2	9.5	0.0	84
人間関係について	男・無配偶	20.4	10.2	19.7	34.0	40.0	0.7	28.4	18.2	0.5	2.9	5.1	412
	男・有配偶	6.5	5.4	12.0	25.0	15.2	0.0	12.0	65.2	0.0	5.4	4.3	92
	女・無配偶	36.3	15.1	13.4	35.2	48.1	0.5	26.0	34.1	0.7	4.0	3.3	551
	女・有配偶	24.7	17.8	13.7	28.8	20.5	1.4	21.9	58.9	2.7	4.1	0.0	73
経済的な問題(お金のこ と)について	男・無配偶	60.2	11.2	10.2	15.9	15.9	0.6	15.5	13.7	0.0	4.3	8.2	490
	男・有配偶	29.5	3.9	9.3	9.3	0.8	0.8	2.3	84.5	0.0	3.9	1.6	129
	女・無配偶	68.6	14.4	4.4	13.7	17.9	0.4	12.9	28.2	0.7	3.3	5.0	542
	女・有配偶	41.2	10.3	3.1	8.2	4.1	1.0	6.2	75.3	0.0	4.1	2.1	97

***p<.001, **p<.01, *p<.05, #p<.10

次に、相談相手の選択状況を、男女それぞれについて就業状況（従業上の地位）別に概観する（図表 4-7）。

図表 4-7 悩みの相談相手の選択割合：現在の就業状況別 (%)

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバ イト先の上 司	職場やバ イト先の友 人・同僚	学校で知り 合った友 人	学校の先 生・職員・ 相談員	趣味をとも にする友 人	恋人・配偶 者	専門家や 公的な支 援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方 について	男・正社員	28.8	9.1	35.8	43.6	30.9	1.2	17.6	32.1	0.3	3.3	1.8	330
	男・パート・契約	35.4	17.1	23.8	35.4	34.3	2.2	27.1	14.4	0.0	5.0	6.1	181
	男・自営	39.5	7.9	10.5	23.7	15.8	2.6	23.7	47.4	0.0	2.6	5.3	38
	男・失業・無職	40.7	3.7	7.4	14.8	33.3	0.0	22.2	11.1	14.8	3.7	14.8	27
	女・正社員	49.3	15.8	26.2	53.0	43.6	3.0	19.5	36.9	0.3	3.0	2.7	298
	女・パート・契約	44.9	19.9	18.8	47.8	34.8	2.9	27.9	39.9	1.8	6.2	1.1	276
	女・失業・無職	63.6	27.3	6.1	15.2	42.4	6.1	36.4	24.2	0.0	12.1	3.0	33
これからの生き方や働き 方について	男・正社員	32.3	7.8	22.4	28.3	31.5	0.5	21.8	36.9	0.3	3.8	2.2	371
	男・パート・契約	39.5	15.0	18.6	28.2	30.5	1.8	30.5	13.6	0.0	5.0	6.8	220
	男・自営	36.6	2.4	7.3	9.8	14.6	2.4	29.3	46.3	0.0	7.3	7.3	41
	男・失業・無職	50.0	14.7	2.9	14.7	44.1	0.0	23.5	8.8	17.6	8.8	8.8	34
	女・正社員	48.6	17.2	13.3	35.3	44.4	0.6	18.7	38.4	0.3	2.7	1.8	331
	女・パート・契約	48.9	19.8	9.7	26.1	37.1	3.0	29.2	41.6	2.1	7.6	2.7	329
	女・失業・無職	67.6	16.2	2.7	8.1	35.1	5.4	35.1	29.7	2.7	10.8	2.7	37
人間関係について	男・正社員	18.2	8.6	21.8	34.0	35.3	0.7	21.1	31.4	0.7	2.8	2.6	30
	男・パート・契約	14.7	10.0	15.3	35.3	36.0	0.0	35.3	14.0	0.0	4.0	7.3	150
	男・自営	19.2	7.7	3.8	11.5	23.1	3.8	23.1	57.7	0.0	3.8	7.7	26
	男・失業・無職	36.4	18.2	9.1	13.6	50.0	0.0	22.7	18.2	0.0	4.5	18.2	22
	女・正社員	34.3	13.8	16.2	39.4	48.8	1.0	20.2	34.3	0.0	1.7	3.0	297
	女・パート・契約	33.0	15.6	11.7	31.9	41.1	0.4	29.4	39.4	1.1	6.0	2.5	282
	女・失業・無職	40.0	26.7	6.7	13.3	36.7	0.0	33.3	30.0	6.7	6.7	3.3	30
経済的な問題(お金のこ と)について	男・正社員	49.0	6.5	12.4	16.5	11.2	0.6	7.4	37.2	0.0	3.5	6.5	339
	男・パート・契約	60.0	14.1	7.8	14.6	14.6	0.5	19.5	13.2	0.0	5.4	7.8	205
	男・自営	54.8	9.5	4.8	2.4	9.5	2.4	21.4	50.0	0.0	4.8	2.4	42
	男・失業・無職	67.9	14.3	0.0	10.7	25.0	0.0	17.9	7.1	0.0	0.0	3.6	28
	女・正社員	65.6	12.5	6.1	14.0	17.9	0.4	6.5	31.5	0.4	0.7	6.5	279
	女・パート・契約	62.1	13.6	2.6	12.9	14.6	0.0	16.8	40.5	1.0	5.2	3.6	309
	女・失業・無職	64.7	23.5	0.0	2.9	11.8	2.9	14.7	14.7	0.0	5.9	0.0	34

***p<.001, **p<.01, *p<.05, #p<.10 十分なセル数がある場合のみ検定を行っている
注)女性の自営は少数のため割愛している。

「失業・無職」や「自営」では、「正社員（公務員を含む）」（以下「正社員」と略記）や「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」（以下「パート・契約」と略記）ほどには職場関係の人を相談相手に選ぶ人が少ないことが確認できるが、これは当然ながら周囲に職場関係の

人が多くないことの表れであろう。注目されるのが「恋人・配偶者」であり、男性では4つの悩みすべてで有意差がみられたが、女性では「経済的問題」にのみにとどまった。男性に関して、「恋人・配偶者」を選ぶ人の割合が、正社員と自営で高く、パート・契約と失業・無職で低いという傾向が、4つの悩みに共通してみられる。確かに、男性の有配偶率は就業状況によって大きく異なり、正社員は23.4%、自営は35.7%が有配偶であるのに対して、パート・契約の有配偶率は4.1%、失業・無職に至ってはゼロ(0.0%)であり(図表4-8)、このことが影響している可能性がある⁶が、今回の対象者の有配偶率は全体で15.3%(男性全体・女性全体でそれぞれ16.7%・13.7%)にとどまっており、8割以上を占める無配偶者(その場合、配偶者ではなく恋人になる)も検討する必要がある。詳細は略すが、4つのどの悩みについても、非典型雇用や失業・無職の無配偶男性で恋人を相談相手に選ぶ割合は有意に低いことが確認できる。このことから、パート・契約や失業・無職で恋人・配偶者を選ぶ人の割合が低いのは、確証はできないものの、そもそも恋人や配偶者がいない人が多いので相談相手として選べないためという可能性も考えられる。

図表4-8 就業状況別の有配偶率(%)

	有配偶率	n(人)
男・正社員	23.4	572
男・パート・契約	4.1	343
男・自営	35.7	70
男・失業・無業	0.0	46
$\chi^2=84.949, d.f.=3, p<.001$		
女・正社員	8.8	443
女・パート・契約	18.8	448
女・自営	33.3	18
女・失業・無業	6.7	45
$\chi^2=26.164, d.f.=3, p<.001$		

最後に、回答者の学歴による相談相手の選択状況の違いを、男女別にみることにする(図表4-9)。この表からは明瞭な特徴はとらえにくいですが、全般的にみて、少なくとも就業状況ほどには、学歴は相談相手の選択状況にはっきりした影響を与えてはいないといえる⁷。

⁶ つまり、少なくとも東京においては、非典型雇用の20代男性が結婚する(している)可能性は著しく低いということであり、非典型雇用であることが結婚に関する規範や意識と今なお明確に抵触していることがうかがえる。

⁷ なお、特に大きい数値ではないものの、男性の中学・高校中退者に関して、「今の仕事」「これからの生き方」で「専門家や公的な支援機関」を選択している割合が相対的に高いことは注目される。

図表4-9 悩みの相談相手の選択割合：学歴別（％）

	親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)	
今の自分の仕事や働き方について	男・高卒	31.8	12.8	26.1	37.0	28.4	2.8	23.2	27.0	0.5	3.3	1.9	211
	男・専門卒	35.5	9.3	27.1	34.6	32.7	1.9	15.9	29.0	0.9	6.5	6.5	107
	男・短大・高専卒	44.4	11.1	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	11.1	0.0	9
	男・大学・大学院卒	28.7	9.1	33.5	44.5	35.4	1.2	20.7	21.3	0.6	4.3	3.7	164
	男・中卒・高校中退	19.2	5.8	30.8	34.6	17.3	0.0	13.5	30.8	3.8	0.0	9.6	52
	男・高等教育中退	55.6	22.2	33.3	36.1	41.7	0.0	36.1	30.6	0.0	2.8	2.8	36
	女・高卒	48.6	21.1	21.1	42.9	36.0	4.6	26.3	33.7	1.1	3.4	2.3	175
	女・専門卒	48.0	17.9	22.8	50.4	43.1	5.7	24.4	43.1	1.6	7.3	2.4	123
	女・短大・高専卒	53.3	20.6	22.4	58.9	42.1	0.0	29.9	39.3	1.9	6.5	0.9	107
	女・大学・大学院卒	51.0	13.8	24.8	48.3	45.5	4.1	20.7	35.2	0.7	2.8	2.1	145
女・中卒・高校中退	41.0	23.1	12.8	38.5	25.6	2.6	23.1	35.9	0.0	10.3	2.6	39	
女・高等教育中退	35.5	19.4	12.9	38.7	29.0	0.0	12.9	48.4	0.0	6.5	3.2	31	
#													
これからの生き方や働き方について	男・高卒	37.9	12.8	18.9	21.8	28.8	2.1	25.1	29.2	1.2	5.8	2.9	243
	男・専門卒	33.9	4.7	19.7	23.6	26.8	1.6	21.3	29.9	0.0	7.1	6.3	127
	男・短大・高専卒	46.2	15.4	23.1	15.4	15.4	0.0	23.1	30.8	0.0	7.7	0.0	13
	男・大学・大学院卒	31.7	7.7	18.0	35.5	42.6	0.5	25.7	23.0	1.1	3.3	3.3	183
	男・中卒・高校中退	33.9	11.3	24.2	25.8	9.7	0.0	19.4	35.5	3.2	0.0	9.7	62
	男・高等教育中退	47.6	19.0	19.0	28.6	38.1	0.0	45.2	28.6	0.0	4.8	2.4	42
	女・高卒	48.5	17.2	8.6	24.2	37.9	3.5	28.8	36.9	1.5	4.0	1.5	198
	女・専門卒	52.4	22.4	14.7	28.7	43.4	2.1	28.0	49.0	1.4	7.0	2.1	143
	女・短大・高専卒	46.2	21.0	10.1	34.5	40.3	1.7	24.4	40.3	3.4	6.7	3.4	119
	女・大学・大学院卒	50.6	14.1	14.1	35.9	50.0	1.8	18.8	35.9	0.6	4.1	1.8	170
女・中卒・高校中退	61.7	21.3	8.5	27.7	19.1	2.1	21.3	36.2	0.0	8.5	4.3	47	
女・高等教育中退	47.1	20.6	2.9	17.6	35.3	0.0	20.6	41.2	0.0	5.9	2.9	34	
#													
人間関係について	男・高卒	18.1	11.5	18.7	30.8	33.5	1.6	26.4	26.9	0.5	3.8	2.7	182
	男・専門卒	15.2	5.4	16.3	32.6	33.7	0.0	22.8	28.3	1.1	6.5	8.7	92
	男・短大・高専卒	16.7	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	6
	男・大学・大学院卒	18.5	9.6	20.5	35.6	44.5	0.0	24.7	24.0	0.0	2.1	2.1	146
	男・中卒・高校中退	17.8	4.4	8.9	31.1	20.0	0.0	17.8	33.3	0.0	0.0	13.3	45
	男・高等教育中退	21.9	15.6	18.8	34.4	34.4	0.0	43.8	25.0	0.0	3.1	6.3	32
	女・高卒	34.3	17.1	16.6	31.4	41.7	1.7	27.4	33.1	1.1	2.9	1.7	175
	女・専門卒	33.6	16.0	11.2	31.2	47.2	2.4	25.6	47.2	2.4	5.6	2.4	125
	女・短大・高専卒	43.5	14.8	13.0	38.0	46.3	0.0	26.9	38.0	0.0	5.6	1.9	108
	女・大学・大学院卒	34.5	13.1	13.8	39.3	53.1	0.0	22.1	30.3	0.7	2.8	2.8	145
女・中卒・高校中退	32.4	13.5	5.4	35.1	24.3	0.0	29.7	35.1	0.0	2.7	8.1	37	
女・高等教育中退	21.9	15.6	15.6	28.1	31.3	0.0	18.8	46.9	0.0	6.3	9.4	32	
#													
経済的な問題(お金のこと)について	男・高卒	51.9	9.9	7.7	10.7	15.0	0.4	15.5	26.6	0.0	4.3	4.7	233
	男・専門卒	57.4	6.6	10.7	13.9	13.1	1.6	11.5	30.3	0.0	6.6	6.6	122
	男・短大・高専卒	38.5	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	53.8	0.0	0.0	7.7	13
	男・大学・大学院卒	57.5	9.8	9.8	19.0	15.0	0.7	12.4	21.6	0.0	2.6	9.2	153
	男・中卒・高校中退	46.3	13.0	25.9	16.7	3.7	0.0	7.4	40.7	0.0	1.9	9.3	54
	男・高等教育中退	53.5	14.0	4.7	16.3	7.0	0.0	11.6	34.9	0.0	7.0	7.0	43
	女・高卒	68.4	16.6	1.6	13.9	11.8	1.1	12.8	28.9	0.5	2.1	4.3	187
	女・専門卒	60.9	13.8	7.2	10.9	13.8	0.0	10.1	44.2	0.7	4.3	5.8	138
	女・短大・高専卒	65.7	12.7	2.9	11.8	20.6	0.0	10.8	39.2	2.0	2.0	3.9	102
	女・大学・大学院卒	63.8	10.8	6.9	15.4	21.5	0.8	10.8	31.5	0.0	3.1	3.8	130
女・中卒・高校中退	55.6	15.6	4.4	15.6	15.6	0.0	26.7	37.8	0.0	4.4	6.7	45	
女・高等教育中退	65.7	11.4	0.0	5.7	11.4	0.0	0.0	37.1	0.0	11.4	2.9	35	
#													

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10 十分なセル数がある場合のみ検定を行っている

以上の概観からいくつかポイントを抽出するならば、(1) 相談内容によらず、有配偶になると相談相手が、職場関係を比較的保持しつつ、「親・保護者」「学校で知り合った友人」からシフトし、配偶者に集中する傾向があること、(2) 失業・無職や自営では、職場関係の人を相談相手に選ぶ人が少ないこと、つまり逆に言うならば、正社員やパート・契約社員などにとっては、職場は相談相手の「供給源」として大きな存在であるということ、(3) 男性の場合、正社員と自営では、「恋人・配偶者」を選ぶ人の割合が他よりも高いということ、の各点が挙げられる。

これらから示唆されるのは、職場が単なる仕事の環境というだけでなく、人間関係のリソースを提供する場としても機能しているということである。仕事関係を中心に、さまざまな悩みについての相談ネットワークが供給される場として、職場をとらえることが必要である。

見方を変えると、失業・無職のため職場をもたないということは、単に仕事をもたないというだけでなく、相談ネットワークの供給源をもたないことまでも含意しているといえよう。

4. 相談ネットワークの広がり

前節でみたのは、相談ネットワークの実態としての、誰が相談相手としてよく選ばれているか／いないかの状況であった。つまり、回答者と相談相手の二者間の関係のみをみていたことになる。しかし、ひとつの悩みについて相談相手は一人しかいないわけではなく、複数の相談相手がいることもあるので、相談ネットワークを十分にとらえるにはさらなる検討が必要である。

そこで本節では、回答者が個々の悩みにどのような相談相手の組み合わせを選んでいるのかについて検討する。つまり、一人が複数の人とどのようなネットワークをつくっているのかに注目し、相談ネットワークの広がりについて分析する。

なお、当該の質問項目では相談相手の選択肢が（「誰もいない」も含めて）11件もあるため、ここでは4つのカテゴリーに整理した。1つ目は「家族」で、これは「親・保護者」と「兄弟姉妹」からなる。2つ目は「職場関係」で、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が該当する。3つ目は「友人」で、「学校で知り合った友人」と「趣味をともにする友人」が含まれる。4つ目は「恋人・配偶者」である。相談相手として選ばれる割合がおおむね5%以下と低かった残り4つの選択肢（「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」）は、この新しい4つのカテゴリーには含まれていない。

そして、個々のカテゴリーについて、それを構成する選択肢のうちのいずれか1つでも選択されていれば、そのカテゴリーが相談相手として選ばれているとみなす。たとえば「家族」の場合、ある回答者が「親・保護者」と「兄弟姉妹」のいずれか1つでも選択しているのであれば、その回答者は「家族」を相談相手に選んでいると考える。このようにして、11件の選択肢の選択状況を、4つのカテゴリーの選択状況に変換してとらえることにする。4つのカテゴリーのそれぞれについて、選ぶ／選ばないという2つの可能性があるため、相談ネットワークの組み合わせは16パターンあることになる。相談相手に選ばれている場合に1、選ばれていない場合に0という値を割り当て、割り当てた値を4桁に順に並べて表記すると、相談ネットワークの16パターンを4桁の数値で表現することができる（図表4-10）。たとえば、相談相手として「親・保護者」と「職場やバイト先の友人・同僚」のみを選んでいる場合、「家族」と「職場関係」というカテゴリーに該当するため、その相談ネットワークは「1100」と表記される。以下では、相談ネットワークを表現する際に、適宜この4桁の数値を用いることにする。また、4つの個々の相談先に言及する際は、それぞれを「相談チャンネル」と呼ぶことにする。

図表 4-10 相談相手の組み合わせと表記法

表記	家族	職場関係	友人	恋人・配偶者
0000	×	×	×	×
0001	×	×	×	○
0010	×	×	○	×
0011	×	×	○	○
0100	×	○	×	×
0101	×	○	×	○
0110	×	○	○	×
0111	×	○	○	○
1000	○	×	×	×
1001	○	×	×	○
1010	○	×	○	×
1011	○	×	○	○
1100	○	○	×	×
1101	○	○	×	○
1110	○	○	○	×
1111	○	○	○	○

○:相談相手として選ばれている

×:相談相手として選ばれていない

注)4桁の数値は、1000の位が「家族」、100の位が「職場関係」、10の位が「友人」、1の位が「恋人・配偶者」にそれぞれ割り当てられている。

このように整理したのは、相談ネットワークがどれだけ多様な“世界”に開かれているかに注目しているからである。たとえば、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」は異なる選択肢を設けているが、この2つが選ばれているとしても、回答者とのつながり方は上司であれ同僚であれ「職場」を介するという点で共通である。いわば、上司も同僚も同じ一つの“世界”の出身だと考えられる。これに対して、たとえば「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」の2つが選ばれているとき、この2つは回答者とのつながり方が共通ではない（「家族」と「職場」）ので、それぞれ異なる“世界”の人だとみなすことができる。したがって、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合と、「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合を考えると、どちらも「2つ」という点で同じとみなしてしまえば、後者がより多様なつながり方をしていることが消えてしまうのである。ここでは、ソーシャル・ネットワークがいかなる多様性を含みこんでいるかを把握するという意図があるので、11の選択肢を整理・集約するに際して、4つの異なる“世界”を表すものとして、上述の4カテゴリーを設けたというわけである。

なお、4つのカテゴリーがどれも選ばれなかった場合は「0000」となるが、これは11の選択肢の中の「誰もいない」と同一ではない。「誰もいない」は相談相手が一切いないという意味だが、「0000」はあくまでも4カテゴリーには相談相手がいないということなので、4カテゴリーに含まれない「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」だけを相談相手として選んでいる場合も「0000」に含まれている。しかし実際にはそのようなケースは多くなく、4つの悩みのすべてにおいて、「0000」の過半数

を占めるのは「誰もいない」である⁸。

以上のような方法で 16 パターンに整理された相談ネットワークが、実際にどのような状況であるのかを、続けて4つの悩みごとに検討することにしよう。

まず、図表4-11を例にして、相談ネットワークのパターンを整理した表について説明する。この表は、「今の自分の仕事や働き方」についての悩みに対して、どのような相談ネットワークのパターンが選択されているかを示したものである。ここでは、性別・配偶状態別に分けた上で、さらに就業状況（従業上の地位）ごとにみることにした。就業状況としては、特に「正社員」「パート・契約」「失業・無職」の3つをとりあげて比較する⁹。このような形で検討するのは、基本属性（特に就業状況）によってネットワークのあり方が規定されている可能性が高いと考えたためである。なお、有配偶者のうち、男性の「パート・契約」、および男性・女性の「失業・無職」については、該当者が非常に少ないためここでは検討していない。この表は、それぞれの属性について、選ばれた割合が多いパターンから順に列記している。たとえば、「男性・無配偶・正社員」の場合、「0100」つまり職場関係の人にだけ相談するというパターンが25.6%を占めて最も多く、次に多いのは「0110」つまり職場関係の人と友人に相談するというパターンで、11.6%を占めている、という形である。

表の内容を具体的にみていくと、「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの場合、男性の無配偶者では、正社員で25.6%を占めて最も多い「0100」（職場関係のみ）が、パート・契約では2番目に多いものの16.5%に減り、失業・無職ではわずか3.7%（1人）になっている。職場関係を含むパターンは、他のものも同様に、正社員やパート・契約である程度の割合があるとしても、失業・無職ではごくわずかになっている。これに対して、「0010」（友人のみ）は正社員では10.4%だがパート・契約では17.1%を占め最も多く、失業・無職でも最も多くその比率は29.6%にまで達する。同様に、「0000」（相手がない¹⁰）や「1000」（家族のみ）も、正社員、パート・契約、失業・無職の順に、それぞれ4.8%・9.4%・18.5%、4.0%・12.4%・25.9%となっており、「今の仕事」の悩みについては、正社員では職場関係の人にだけ相談するというパターンが多かったのが、非典型雇用では友人や家族にだけ相談するというパターンも加わり、失業・無職では友人のみ・家族のみ・相手がないという3パターンで全体の4分の3を占めるほどになっている。今の仕事に関する悩みである以上、

⁸ 「今の仕事」の場合、相談ネットワークが「0000」である人は63人（全体の3.2%）で、そのうちの57.1%（36人）が「誰もいない」と回答している。同様に、「これからの生き方」・「人間関係」・「経済的問題」の場合、それぞれ「0000」である人は86人（4.3%）・66人（3.3%）・101人（5.1%）で、そのうち52.3%（45人）・65.2%（43人）・70.3%（71人）が「誰もいない」と回答している。

⁹ 「自営」などは、該当者数が多くないことや、典型雇用／非典型雇用の間で対比するという関心から、ここでは割愛した。

¹⁰ 上述したとおり、「0000」に含まれるのは相談相手が一切いないケースだけではないが、その過半数を占めるのが「誰もいない」という回答であることを考慮し、要約的に表現する際は「相手がない」と表すことにする。

職場関係の人が相談相手として選ばれるというのは理解しやすいが、その比重が高いといえるのはあくまでも正社員であって、パート・契約では、友人や家族にだけ相談して職場関係の人は選ばれないというパターンも多くなり、失業・無職では職場関係の人を選ぶパターンは目立たなくなってしまうている。大まかな傾向として、職場関係の人を選ぶ割合は、正社員>パート・契約>失業・無職となっており、友人や家族を選ぶ割合や、相手がいない割合は、正社員<パート・契約<失業・無職となっているとまとめられよう。つまり、職場関係の人が相談相手として選ばれないとき、友人や家族がより選ばれるようになるという「代替関係」の存在がうかがえる。

同様の傾向は、女性の無配偶者でも確認できる。正社員で上位を占める「1110」（親・職場関係・友人）や「0100」（職場関係のみ）が、パート・契約では横ばいしないしやや比率を下げ、失業・無職ではいずれも1名にとどまっている。反対に、「0010」（友人のみ）・「1000」（親のみ）・「1010」（親と友人）は、正社員よりもパート・契約で若干多く、失業・無職ではこの3つが上位を占めるほどに多くなっている。男性の場合ほど正社員とパート・契約の間の差は明瞭ではないが、同様の傾向がおおむねみられるといえよう。

有配偶者の場合は、男女とも職場関係に加えて配偶者が相談相手に選ばれているパターンの割合が非常に多く、有配偶者にとって配偶者は相談相手として大きな存在になっていることがわかる。その中でも「0001」（配偶者のみ）が多く、相談相手の配偶者への集中傾向がうかがえる。

以上から、「今の仕事」についての悩みの相談ネットワークに関しては次の点が指摘できる。無配偶者の場合、男女ともおおむね、正社員は職場関係の人の比重が高く、パート・契約ではそれより低く、失業・無職ではさらに低い。友人・家族・「相手がいない」の割合は、失業・無職で高く、次いでパート・契約であり、正社員では前二者より低い。正社員において職場関係の人が占めている部分を、失業・無職では友人や家族（男性では「相手がいない」も）が埋め合わせている形になっており、しかも「0010」（友人のみ）や「1000」（家族のみ）のように、単一の相談チャンネルしか有しないケースが多くを占めていることが注目される。また男性における「相手がいない」の割合の高さも注目される。有配偶者の正社員では、男女とも配偶者と職場関係が主要な相談相手となっている。

図表4-11 「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの相談ネットワーク

男性・無配偶・ 正社員	男性・無配偶・ パート・契約	男性・無配偶・ 失業無職	女性・無配偶・ 正社員	女性・無配偶・ パート・契約	女性・無配偶・ 失業無職
0100 25.6	0010 17.1	0010 29.6	1110 14.4	0100 13.4	1010 25.8
0110 11.6	0100 16.5	1000 25.9	0100 12.9	1110 13.0	1000 19.4
0010 10.4	1000 12.4	0000 18.5	0110 10.3	0010 11.8	0010 16.1
1110 9.6	1010 10.6	0001 3.7	1111 7.7	1000 8.4	1011 9.7
1100 5.2	0110 10.0	0100 3.7	0010 6.6	1010 8.0	1111 9.7
0000 4.8	0000 9.4	0110 3.7	1100 6.6	1001 6.3	0000 6.5
1010 4.8	1110 8.2	1010 3.7	1101 6.6	0101 5.0	0001 3.2
1000 4.0	1100 4.7	1101 3.7	1000 5.5	1011 5.0	0011 3.2
1011 4.0	1111 3.5	1110 3.7	1010 5.5	1111 5.0	0100 3.2
0101 3.6	0001 1.8	1111 3.7	1011 5.5	0001 4.6	1110 3.2
1111 3.6	0101 1.8	0011 0.0	0000 4.8	0110 4.6	0101 0.0
0011 2.8	0011 1.2	0101 0.0	0111 4.4	0111 4.2	0110 0.0
0111 2.8	1011 1.2	0111 0.0	0011 3.0	1100 4.2	0111 0.0
1001 2.8	0111 0.6	1001 0.0	0001 2.2	0011 2.9	1001 0.0
1101 2.8	1001 0.6	1011 0.0	0101 2.2	1101 2.1	1100 0.0
0001 1.6	1101 0.6	1100 0.0	1001 1.5	0000 1.3	1101 0.0
n(人) 250	n(人) 170	n(人) 27	n(人) 271	n(人) 238	n(人) 31
男性・有配偶・ 正社員			女性・有配偶・ 正社員		女性・有配偶・ パート・契約
0100 26.3			0001 25.9	0001 21.1	
0001 22.5			1001 18.5	1111 21.1	
0101 20.0			0100 14.8	0100 13.2	
0110 5.0			0101 11.1	1001 13.2	
1001 5.0			1101 7.4	1101 7.9	
0000 3.8			0011 3.7	0000 5.3	
1111 3.8			0110 3.7	1000 5.3	
0011 2.5			0111 3.7	1100 5.3	
0111 2.5			1010 3.7	0010 2.6	
1000 2.5			1100 3.7	0011 2.6	
0010 1.3			1111 3.7	1011 2.6	
1010 1.3			0000 0.0	0101 0.0	
1011 1.3			0010 0.0	0110 0.0	
1100 1.3			1000 0.0	0111 0.0	
1110 1.3			1011 0.0	1010 0.0	
1101 0.0			1110 0.0	1110 0.0	
n(人) 80			n(人) 27	n(人) 38	

次に、「これからの生き方や働き方」についての悩みに関しても、無配偶の男性では、「今の仕事」の場合と同様の相談ネットワークの特徴が確認できる（図表4-12）。すなわち、職場関係の人を選ぶ割合は、正社員＞パート・契約＞失業・無職となっており（例えば「0100」（職場関係のみ））、友人や家族を選ぶ割合や、相手がない割合は、正社員＜パート・契約＜失業・無職となっている（例えば、「0010」（友人のみ）・「1000」（親のみ）・「0000」（相手がない））。

図表4-12 「これからの生き方や働き方」についての悩みの相談ネットワーク

男性・無配偶・ 正社員	男性・無配偶・ パート・契約	男性・無配偶・ 失業無職	女性・無配偶・ 正社員	女性・無配偶・ パート・契約	女性・無配偶・ 失業無職
0010 16.4	0010 19.6	0010 23.5	1000 11.9	0010 13.3	1000 29.4
0100 15.3	1000 14.8	1000 23.5	0010 11.6	1010 12.9	1010 23.5
1000 11.4	1010 13.4	1010 17.6	1110 9.2	1000 10.8	0010 14.7
0110 8.9	0000 11.0	0000 17.6	1010 8.6	1001 7.6	0011 8.8
1010 8.5	0100 11.0	1110 5.9	0110 7.9	1110 7.6	0000 5.9
0000 5.0	0110 7.2	1111 2.9	0100 7.6	1011 7.2	1011 5.9
0001 4.6	1110 6.2	0111 2.9	1111 6.3	0001 6.5	1111 5.9
1110 4.6	1100 5.7	0100 2.9	1001 5.9	0011 5.8	0001 2.9
1001 4.3	0011 2.4	0001 2.9	0001 5.6	0000 5.0	1001 2.9
1100 3.9	0101 1.9	1101 0.0	1011 5.6	0110 5.0	0100 0.0
0011 3.6	1111 1.9	1100 0.0	1100 5.3	0100 4.7	0101 0.0
1011 3.6	1011 1.4	1011 0.0	0011 5.0	1100 4.3	0110 0.0
1111 3.6	0111 1.0	1001 0.0	0000 3.3	1111 4.0	0111 0.0
0101 2.8	1001 1.0	0110 0.0	0111 3.0	0111 2.5	1100 0.0
1101 2.1	1101 1.0	0101 0.0	1101 2.0	0101 1.8	1101 0.0
0111 1.4	0001 0.5	0011 0.0	0101 1.3	1101 1.1	1110 0.0
n(人) 281	n(人) 209	n(人) 34	n(人) 303	n(人) 278	n(人) 34

男性・有配偶・ 正社員	女性・有配偶・ 正社員	女性・有配偶・ パート・契約
0001 36.7	0001 35.7	0001 21.6
0101 13.3	1001 21.4	1011 15.7
0100 12.2	0011 10.7	1001 13.7
0011 6.7	0101 7.1	1000 9.8
0111 5.6	1000 7.1	0000 5.9
0010 4.4	0000 3.6	0011 5.9
1001 4.4	0110 3.6	0100 5.9
0000 3.3	1100 3.6	1101 5.9
0110 3.3	1110 3.6	1111 5.9
1000 3.3	1111 3.6	0010 2.0
1011 3.3	0010 0.0	0101 2.0
1010 1.1	0100 0.0	0110 2.0
1100 1.1	0111 0.0	1010 2.0
1111 1.1	1010 0.0	1100 2.0
1101 0.0	1011 0.0	0111 0.0
1110 0.0	1101 0.0	1110 0.0
n(人) 90	n(人) 28	n(人) 51

しかし、「今の仕事」についての悩みの場合に比べて、親や友人などの職場以外の相談チャンネルの存在感は比較的大きく、特にパート・契約では、「今の仕事」のときは職場関係が上位にみられたが、「これからの生き方」では男女とも職場関係が上位にみられなくなっている（これは2位・3位に「0101」（職場関係と配偶者）・「0100」（職場関係のみ）がある男性の正社員とも異なる特徴である）。非典型雇用の場合、「今の仕事」の悩みは職場の上司や同僚に相談できても、今の仕事を越えた「これからの生き方や働き方」の悩みになると、より深い関わりをもつ別の人間関係（友人や家族など）でなければ相談できないということなの

かもしれない。無配偶の女性の場合は、全体として職場関係と「相手がいない」の2つ以外のものに回答が集まる形になっており、今の仕事を越えた将来についての悩みは友人や家族に相談するという、パート・契約および失業・無職の無配偶男性でみられた傾向が、正社員についてもあてはまる結果となっている。また有配偶者では、男女とも配偶者が主要な相談相手となっている。

続いて、「人間関係」についての悩みである（図表4-13）。

図表4-13 「人間関係」についての悩みの相談ネットワーク

男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・パート・契約	男性・無配偶・失業無職	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・パート・契約	女性・無配偶・失業無職
0010 23.7	0010 25.4	0010 27.3	0010 17.8	0010 15.7	0010 22.2
0100 20.7	0100 19.7	0000 18.2	0100 11.9	0100 9.5	1000 22.2
0110 12.5	0110 15.5	1000 18.2	0110 11.1	0011 9.1	1010 18.5
1000 6.9	0000 9.2	0011 9.1	1110 8.5	1000 7.9	0001 7.4
0000 4.7	1010 7.7	1010 9.1	1010 6.7	1110 7.9	1011 7.4
0011 4.7	1000 6.3	1110 9.1	1000 5.9	0001 7.4	1111 7.4
0001 4.3	0011 5.6	0111 4.5	1111 5.9	1010 7.4	0000 3.7
1010 3.4	1110 2.8	1011 4.5	0001 5.6	0110 7.0	0011 3.7
1100 3.4	0001 2.1	0001 0.0	1011 4.8	1011 7.0	0100 3.7
1110 3.4	0111 1.4	0100 0.0	0011 4.4	0000 5.0	0101 3.7
1111 3.0	1100 1.4	0101 0.0	0000 4.1	1001 4.1	0110 0.0
0101 2.6	1111 1.4	0110 0.0	0111 3.7	0111 2.9	0111 0.0
1011 2.6	0101 0.7	1001 0.0	1100 3.0	1100 2.9	1001 0.0
1101 1.7	1101 0.7	1100 0.0	1001 2.6	1111 2.9	1100 0.0
0111 1.3	1001 0.0	1101 0.0	1101 2.6	0101 2.1	1101 0.0
1001 0.9	1011 0.0	1111 0.0	0101 1.5	1101 1.2	1110 0.0
n(人) 232	n(人) 142	n(人) 22	n(人) 270	n(人) 242	n(人) 27

男性・有配偶・正社員	女性・有配偶・正社員	女性・有配偶・パート・契約
0001 38.0	0001 25.9	0001 20.0
0100 16.9	0100 14.8	0100 17.5
0011 9.9	1001 11.1	1111 10.0
0101 9.9	0011 7.4	0010 7.5
0010 7.0	0111 7.4	0101 7.5
0000 5.6	0010 3.7	1000 7.5
0111 2.8	0101 3.7	0000 5.0
1000 2.8	0110 3.7	0011 5.0
1001 2.8	1000 3.7	1001 5.0
0110 1.4	1010 3.7	1010 5.0
1010 1.4	1011 3.7	1011 5.0
1011 1.4	1100 3.7	0110 2.5
1100 0.0	1101 3.7	1101 2.5
1101 0.0	1111 3.7	0111 0.0
1110 0.0	0000 0.0	1100 0.0
1111 0.0	1110 0.0	1110 0.0
n(人) 71	n(人) 27	n(人) 40

無配偶者の男女の各タイプすべてにおいて「0010」（友人のみ）が最も高い割合を占めているが、引き続きこの悩みについても、職場関係と友人・家族・（男性の場合）「相手がいない」の間の代替関係がおおむね確認できる。有配偶者での配偶者の存在の大きさも同様である。

最後に、「経済的な問題」についての悩みであるが（図表4-14）、これでは一転して「1000（家族のみ）」が無配偶の男女の各タイプすべてにおいて最も多くなっており、しかも非常に高い割合で、他のものに大きく差をつける形になっている。

図表4-14 「経済的な問題（お金のこと）」についての悩みの相談ネットワーク

男性・無配偶・ 正社員	男性・無配偶・ パート・契約	男性・無配偶・ 失業無職	女性・無配偶・ 正社員	女性・無配偶・ パート・契約	女性・無配偶・ 失業無職
1000 35.4	1000 44.8	1000 57.1	1000 42.2	1000 38.7	1000 54.8
0100 12.1	0000 11.9	0010 17.9	1001 10.8	1001 12.1	0010 12.9
0000 11.7	0010 9.8	1010 7.1	0000 7.2	0001 8.1	1001 9.7
0010 6.7	1010 8.8	0000 3.6	0001 6.8	0010 6.9	0000 6.5
0001 5.4	0100 4.6	0100 3.6	1010 5.6	0000 6.0	0001 6.5
1010 5.4	1110 4.6	0111 3.6	1010 5.2	1010 6.0	1010 6.5
1100 5.4	1001 3.6	1011 3.6	0010 4.0	1011 4.4	1100 3.2
1001 4.2	1100 3.6	1110 3.6	0100 4.0	0110 3.6	0011 0.0
1110 3.3	0001 3.1	0001 0.0	1100 4.0	0011 3.2	0100 0.0
0101 2.5	0110 2.6	0011 0.0	0011 2.4	1100 2.8	0101 0.0
0110 2.5	0111 1.0	0101 0.0	1111 2.0	1110 2.4	0110 0.0
1111 2.1	0011 0.5	0110 0.0	0110 1.6	0100 2.0	0111 0.0
1011 1.7	1101 0.5	1001 0.0	1011 1.6	1111 1.6	1011 0.0
1101 1.3	1111 0.5	1100 0.0	0101 0.8	0101 1.2	1101 0.0
0111 0.4	0101 0.0	1101 0.0	0111 0.8	0111 0.4	1110 0.0
0011 0.0	1011 0.0	1111 0.0	1101 0.8	1101 0.4	1111 0.0
n(人) 240	n(人) 194	n(人) 28	n(人) 249	n(人) 248	n(人) 31

男性・有配偶・ 正社員	女性・有配偶・ 正社員	女性・有配偶・ パート・契約
0001 56.6	0001 56.7	0001 36.1
1001 17.2	1001 20.0	1001 24.6
0101 6.1	1000 13.3	1000 9.8
1000 5.1	0000 3.3	1011 8.2
0100 4.0	0100 3.3	0000 4.9
0000 3.0	1100 3.3	0100 4.9
1101 3.0	0010 0.0	1101 4.9
1100 2.0	0011 0.0	0101 3.3
0110 1.0	0101 0.0	0010 1.6
0111 1.0	0110 0.0	1010 1.6
1011 1.0	0111 0.0	0011 0.0
0010 0.0	1010 0.0	0110 0.0
0011 0.0	1011 0.0	0111 0.0
1010 0.0	1101 0.0	1100 0.0
1110 0.0	1110 0.0	1110 0.0
1111 0.0	1111 0.0	1111 0.0
n(人) 99	n(人) 30	n(人) 61

男性については、職場関係と友人・家族・「相手がいない」の間の代替関係がゆるやかな形で確認できるものの、全体的に職場関係は無配偶男性の正社員以外ではあまり選ばれていない。有配偶者での配偶者の存在の大きさは、他の悩みと変わらない。

以上、4つの悩みごとに相談ネットワークの広がりについて検討してきた。「経済的な問題」についての悩みは家族への集中傾向がうかがえ、やや例外的な特徴をもっていたが、他の3つに関しては、おおむね共通して、職場関係と友人・家族・(男性のみ)「相手がいない」の間に代替関係がみられた。前節の最後にふれたように、職場が相談ネットワークを供給する場として重要性をもつことがここでも確認できたが、それは特に正社員、中でも男性正社員にとって大きな存在であることがわかった。その存在は、パート・契約ではやや薄らぎ、失業・無職ではきわめて希薄なものになる。代わって重要性をもつのが家族や友人であり、職場関係の人を相談ネットワークにもたないときに、それを家族や友人が代替する形になっている。家族や友人の存在は女性でより明瞭であり、男性正社員ほどに職場関係の人の比重の高さが際立つことはない。それに対して、無配偶の男性では「相手がいない」の割合が低くなく、家族や友人と同様に職場関係を代替する形で、パート・契約や失業・無職である程度の割合を占めている。女性では、職場関係の人が相談相手に選べない場合でも「相手がいない」の割合は決して高くないが、無配偶の男性では無視できない程度に達している。このことは、無配偶男性の相談ネットワークにおいて職場関係がもつ重みが、それがいない場合は他にもう相談先がないという人がいるという形で、逆方向から示されているといえよう。有配偶の場合は、いずれの悩みにおいても配偶者が特に中心的な相談相手になっていることが確認された。

まとめよう。非典型雇用であったり、失業・無職であったりすることは、相談ネットワークの重要な供給源である職場関係の人が自らのネットワークに加わりにくい（加わらない）ことを帰結する。その部分は、主に家族や友人によって相談ネットワークが補われることになる。しかし無配偶の男性の場合、家族や友人でさえなく、「相手がいない」という形になる例も無視できない割合で存在している。相談ネットワークの広がりについてたとえて言うならば、非典型雇用や失業・無職であることによって“世界”が広がりにくくなっている、と表現できるかもしれない。

5. 相談チャンネルの限定

相談ネットワークの選択状況を検討した前節に続き、本節では、複数の相談チャンネルを利用しているかどうかという点に注目して分析する。前節でもある程度視野に入れて論じていたが、個々の悩みの相談相手の選択が、限られた相談チャンネルのみを選んでいるのか、それとも複数の相談チャンネルを選んでいるのかという点に焦点を合わせて検討する。ここでは特に、無配偶者に限って検討することにしよう。

前節でみた表を、相談チャンネル数によって集計しなおしたのが図表4-15-18である。

相談チャンネル数とは、4つの相談先（家族、職場関係、友人、恋人・配偶者）のうちのいくつを選択しているかである。たとえば、これらの表で相談チャンネル数が3の欄にある数値（％）は、「0111」「1011」「1101」「1110」の4パターンの相談ネットワークの合計割合である。またこの表では、相談チャンネル数が少ない場合として、0または1のものを合計した割合も示し¹¹、さらに平均相談チャンネル数も併記した。この表をみることによって、前節でみた相談チャンネルの“代替”を別の形で理解することができる。

「今の仕事」についての悩みの場合（図表4-15）、男女とも正社員ほど相談チャンネル数が多く、失業・無職ほど相談チャンネル数が少ないという傾向がおおむね確認できる。男性で「0000」（「相手がない」、相談チャンネル数0）が失業・無職ほど割合が高まるのも改めて確認できる。相談チャンネル数が0または1のものを合計した割合も、正社員ほど少なく失業・無職ほど多くなっており、平均相談チャンネル数も、正社員ほど多く失業・無職ほど少ない。相談ネットワークに職場関係が加わらない分の差（の一部）が、この平均相談チャンネル数の差に現れていると以为いいだろう。なお男性に比べて女性では、同様の傾向はあるものの、相談チャンネル数が0の割合は男性ほど高くなく、平均相談チャンネル数の差も比較的小さい。これは女性の場合、男性のように職場関係が加わらない分を代替しきれず「相手がない」になるケースが、相対的に少ないことが含意されている。実際、平均相談チャンネル数も男性より多く、女性が男性よりも多チャンネルの相談ネットワークを有していることがわかる。

図表4-15 今の自分の仕事や働き方についての悩みと相談チャンネル数（％）

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・パート・契約	男性・無配偶・失業無職	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・パート・契約	女性・無配偶・失業無職
0	4.8	9.4	18.5	0	4.8	1.3	6.5
1	41.6	47.6	63.0	1	27.3	38.2	41.9
2	30.8	28.8	7.4	2	29.2	31.1	29.0
3	19.2	10.6	7.4	3	31.0	24.4	12.9
4	3.6	3.5	3.7	4	7.7	5.0	9.7
0～1合計	46.4	57.1	81.5	0～1合計	32.1	39.5	48.4
平均チャンネル数	1.75	1.51	1.15	平均チャンネル数	2.10	1.94	1.77

以上の特徴は、「これからの生き方」（図表4-16）や「人間関係」（図表4-17）についての悩みの場合でも、正社員／パート・契約／失業・無職の3つの間のコントラストはやや薄れるものの、おおむね共通してみられるものである。「経済的な問題」（図表4-18）はや

¹¹ 相談チャンネル数が0または1のものに着目するのは、個人が有しているネットワークの広がりにおいて、相談チャンネル数が1つ以下か、あるいは2つ以上かによって大きな違いがあるからである。抽象的な表現になるが、「2つ以上の世界に関わっている」場合は、一方の世界経験から他方の世界経験を相対化することができるが、「1つの世界とだけ関わっている」場合は、そうではない（不可能ではないが容易ではない）。以上から、相談チャンネル数が1つ以下か・2つ以上かという区別に特に注目する必要があるとここでは考えている。

や例外的で、3つの対比も一層曖昧になるが、これについての悩みでは家族への集中がみられたことを反映し、就業形態によらず、相談チャンネル数が0または1のものの合計割合は他の悩みよりも多く、平均相談チャンネル数は他の悩みよりも少ない傾向がみられる。また、4つのどの悩みについても、男性よりも女性の方が多チャンネルの相談ネットワークを有している傾向が確認できる。

図表4-16 これからの生き方や働き方についての悩みと相談チャンネル数 (%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・パート・契約	男性・無配偶・失業無職	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・パート・契約	女性・無配偶・失業無職
0	5.0	11.0	17.6	0	3.3	5.0	5.9
1	47.7	45.9	52.9	1	36.6	35.3	47.1
2	32.0	31.6	17.6	2	34.0	37.4	35.3
3	11.7	9.6	8.8	3	19.8	18.3	5.9
4	3.6	1.9	2.9	4	6.3	4.0	5.9
0~1合計	52.7	56.9	70.6	0~1合計	39.9	40.3	52.9
平均チャンネル数	1.61	1.45	1.26	平均チャンネル数	1.89	1.81	1.59

図表4-17 人間関係についての悩みと相談チャンネル数 (%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・パート・契約	男性・無配偶・失業無職	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・パート・契約	女性・無配偶・失業無職
0	4.7	9.2	18.2	0	4.1	5.0	3.7
1	55.6	53.5	45.5	1	41.1	40.5	55.6
2	27.6	31.0	18.2	2	29.3	32.6	25.9
3	9.1	4.9	18.2	3	19.6	19.0	7.4
4	3.0	1.4	0.0	4	5.9	2.9	7.4
0~1合計	60.3	62.7	63.6	0~1合計	45.2	45.5	59.3
平均チャンネル数	1.50	1.36	1.36	平均チャンネル数	1.82	1.74	1.59

図表4-18 経済的な問題（お金のこと）についての悩みと相談チャンネル数 (%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・パート・契約	男性・無配偶・失業無職	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・パート・契約	女性・無配偶・失業無職
0	11.7	11.9	3.6	0	7.2	6.0	6.5
1	59.6	62.4	78.6	1	57.0	55.6	74.2
2	20.0	19.1	7.1	2	25.3	29.0	19.4
3	6.7	6.2	10.7	3	8.4	7.7	0.0
4	2.1	0.5	0.0	4	2.0	1.6	0.0
0~1合計	71.3	74.2	82.1	0~1合計	64.3	61.7	80.6
平均チャンネル数	1.28	1.21	1.25	平均チャンネル数	1.41	1.43	1.13

失業・無職のケース数が多くないなどの理由で、統計的な有意性の検討を十分に行えないものも多々あるため、ここでは大まかな指摘として述べることにできないが、その限りにおいて以下のようにまとめることにしよう。全体として、正社員よりもパート・契約の方が、そしてそれよりも失業・無職の方が、相談ネットワークのチャンネルが少数（チャンネル数が1ないし0）である傾向がみられる。非典型雇用や失業・無職であることによって、単に

相談チャンネルの一つとしての職場関係の分が欠けやすくなるというだけでなく、相談ネットワーク全体のあり方が多方向的でない形でつくられる可能性があるといえる¹²。

6. 相談ネットワークと結婚に関する意識

前節までで論じてきたのは、主に就業状況によって相談ネットワークのあり方が規定されている可能性についての議論であった。本節では、相談ネットワークのあり方が若者の意識のあり方を規定している可能性について検討する。具体的には、相談ネットワークのあり方によって無配偶者の結婚に関する意識が規定されているかどうかを考える。

まず、結婚に関する意識の回答状況を概観しよう。この調査では、結婚に関する意識を以下の7つの中からあてはまるものを選ぶという形で調べている。すなわち、「すでに結婚している」、「まもなく結婚することが決まっている」、「すぐにでもしたい」、「今はしたくないが、いずれはしたい」、「良い相手がいればしてもよいが、必ずしもしなくてもよい」、「結婚するつもりはない」、「わからない」の7つである。以下では無配偶者のデータのみを用いて考察するので、このうち「すでに結婚している」という回答は対象とはせず、無配偶者が残りの6つからどれを選んでいるかを検討する。

男女別に回答状況をみると（図表4-19）、女性の方が「すぐにでもしたい」が多くなっている。さらに年齢をクロスすると（図表4-20）、年齢が25-29歳のグループの方が、18-24歳のグループよりも男女とも「まもなく結婚することが決まっている」「すぐにでもしたい」「必ずしもしなくてもよい」が多く、「今はしたくないが、いずれはしたい」「わからない」が少ないことがわかる。

図表4-19 無配偶者の結婚に関する意識（%）

	まもなく結婚することが決まっている	すぐにでもしたい	今はしたくないが、いずれはしたい	必ずしもしなくてもよい	結婚するつもりはない	わからない	n(人)
男性	4.3	5.7	51.1	17.8	5.2	16.0	865
女性	5.9	10.4	52.8	16.7	3.0	11.2	830

$\chi^2=26.370, d.f.=5, p<.000$

¹² なお、以上とは別に、学歴別の相談チャンネル数を調べてみると、「今の仕事」と「これからの生き方」についての悩みの相談ネットワークにおいて、女性の学歴別の相談チャンネル数に有意差が検出される。「今の仕事」では、相談チャンネル数が0または1である人の割合が、中卒・高校中退者の女性で59.0%、高等教育中退者の女性で54.8%を占めて他の学歴タイプよりも抜きん出て高くなっている。「これからの生き方」でも、同じ割合が中卒・高校中退者の女性で53.2%、高等教育中退者の女性で55.9%であり、他の学歴タイプではすべて5割未満の値になっている中で、顕著な値である。中退者のネットワークという観点からのさらなる検討は、今後の課題としたい。

図表 4-20 無配偶者の結婚に関する意識：年齢別 (%)

	まもなく結婚すること が決まっている	すぐにでも したい	今はしたくないが、 いずれはしたい	必ずしもし なくてもよ い	結婚する つもりはな い	わからない	n(人)
男性・18-24歳	2.0	4.5	52.5	16.7	4.9	19.3	491
男性・25-29歳	7.2	7.2	49.2	19.3	5.6	11.5	374
$\chi^2=25.800, d.f.=5, p<.000$							
女性・18-24歳	4.1	9.0	58.1	13.3	3.4	12.0	465
女性・25-29歳	8.2	12.1	46.0	21.1	2.5	10.1	365
$\chi^2=22.001, d.f.=5, p<.01$							

以下、ケース数が不十分なセルが生じるため統計的な検定は行っていないが、就業状況でクロスすると、就業状況ごとの違いが顕著なのは男性の方である（図表 4-21）。「まもなく結婚することが決まっている」と「すぐにでもしたい」の合計割合が正社員では 16.0%であるのに対し、パート・契約では 3.6%にすぎず、失業・無職ではゼロ（0.0%）である。非典型雇用や失業・無職の男性で有配偶率が低いことは上でふれたが、無配偶男性の意識の面でもこのような特徴があることは注目される。また男性に関して、「まもなく結婚することが決まっている」「すぐにでもしたい」「今はしたくないが、いずれはしたい」の3つと残りの3つの回答について、双方の合計割合を求めると、正社員や自営ではほぼ 7 : 3 となるが、パート・契約や失業・無職ではほぼ 5 : 5 となり、結婚への志向の差が浮かび上がってくる¹³。

図表 4-21 無配偶者の結婚に関する意識：就業状況別 (%)

	まもなく結婚すること が決まっている	すぐにでも したい	今はしたくないが、 いずれはしたい	必ずしもし なくてもよ い	結婚する つもりはな い	わからない	n(人)
男性・正社員	7.1	8.9	53.2	15.8	3.4	11.6	438
男性・パート・契約	1.2	2.4	47.1	20.7	7.6	21.0	329
男性・自営	4.4	4.4	62.2	15.6	4.4	8.9	45
男性・失業・無職	0.0	0.0	50.0	17.4	6.5	26.1	46
女性・正社員	6.7	9.9	54.7	17.3	2.0	9.4	404
女性・パート・契約	5.5	11.0	51.9	15.9	3.3	12.4	364
女性・自営	8.3	16.7	41.7	8.3	8.3	16.7	12
女性・失業・無職	2.4	7.1	45.2	16.7	9.5	19.0	42

学歴別にみると（図表 4-22）、男性では大学・大学院卒で「まもなく結婚することが決まっている」の割合が高いこと、高卒や中卒・高校中退で「わからない」の割合が際立って高く、結婚への志向が強くないことがわかる。また女性では、中卒・高校中退と高等教育中退で「今はしたくないが、いずれはしたい」が少なく、他のタイプと比べて特徴的な結果になっている。

¹³ 「わからない」は、少なくともその選択肢からは、結婚に関する意識の具体的な内容は明示されていない。しかしここでは、回答状況から判断して、結婚に関して中立的な意識を示しているのではなく、結婚に関して消極的な（少なくとも積極的ではない）意識を示していると解釈している。

図表 4-22 無配偶者の結婚に関する意識：学歴別（％）

	まもなく結婚すること が決まっている	すぐにでも したい	今はしたくないが、い ずれはしたい	必ずしもし なくてもよ い	結婚する つもりはな い	わからない	n(人)
男性・高卒	3.2	5.8	50.6	14.7	4.2	21.5	312
男性・専門卒	3.8	4.4	55.7	17.7	5.7	12.7	158
男性・短大・高専卒	0.0	16.7	61.1	11.1	5.6	5.6	18
男性・大学・大学院卒	6.3	5.2	52.4	21.4	5.2	9.5	252
男性・中卒・高校中退	2.9	7.1	40.0	12.9	7.1	30.0	70
男性・高等教育中退	5.7	5.7	47.2	26.4	5.7	9.4	53
女性・高卒	2.4	10.6	52.4	16.3	4.1	14.2	246
女性・専門卒	6.5	10.7	55.0	15.4	2.4	10.1	169
女性・短大・高専卒	9.7	9.7	58.2	14.2	1.5	6.7	134
女性・大学・大学院卒	7.2	8.8	57.2	17.5	0.5	8.8	194
女性・中卒・高校中退	3.9	5.9	29.4	27.5	11.8	21.6	51
女性・高等教育中退	8.8	26.5	29.4	17.6	5.9	11.8	34

最後に年収別にみると（図表 4-23）、「まもなく結婚することが決まっている」の割合が男女とも年収が多いほど高くなっていることがわかる。また、男性は大まかな傾向として年収が高いほど結婚への志向が強まっているが、女性はそれほど顕著ではなく、年収の高い層では結婚への志向だけでなく「必ずしもしなくてもよい」の割合も高くなっているなど、複雑な状況が確認できる。

図表 4-23 無配偶者の結婚に関する意識：年収別（％）

	まもなく結婚すること が決まっている	すぐにでも したい	今はしたくないが、い ずれはしたい	必ずしもし なくてもよ い	結婚する つもりはな い	わからない	n(人)
男性・0-100万円	0.0	5.4	51.4	17.6	8.1	17.6	74
男性・101-200万円	2.0	4.9	45.6	21.1	5.9	20.6	204
男性・201-300万円	3.7	4.3	56.5	17.7	3.3	14.4	299
男性・301-400万円	8.5	9.8	51.8	14.0	4.9	11.0	164
男性・401万円-	16.3	14.0	44.2	18.6	4.7	2.3	43
女性・0-100万円	3.4	10.1	47.2	18.0	3.4	18.0	89
女性・101-200万円	4.4	9.2	56.0	15.2	2.8	12.4	250
女性・201-300万円	7.0	11.7	54.4	15.8	1.7	9.4	298
女性・301-400万円	7.8	10.4	50.6	24.7	2.6	3.9	77
女性・401万円-	10.3	13.8	41.4	20.7	3.4	10.3	29

続けて、以上のような結婚に関する意識が、相談ネットワークのあり方によって規定されている可能性を検討する。具体的には、相談ネットワークにおける相談チャンネル数が、結婚への志向と関連しているかどうかをまず調べることにする。

図表 4-24 は、男女別に相談チャンネル数（0～1 または 2 つ以上）と結婚に関する意識の関連をみたものである¹⁴。「経済的な問題」の男性の場合を除き、すべてにおいて有意差が

¹⁴ なお、結婚に関する意識を扱うことから、相談チャンネルの中から「恋人」を除いたものを用いて分析の方が望ましいという考え方もありうるが、ここではそうせずに、「恋人」も含む相談ネットワーク全体を用いて分析している。仮に「恋人」を除いて分析する場合、実際には「恋人」を含めて

検出されており、ほとんどにおいて表の左側の3つの回答（「まもなく結婚することが決まっている」「すぐにでもしたい」「今はしたくないが、いずれはしたい」）の割合が、相談チャンネル数が0～1の場合よりも2つ以上の場合で高くなっている。

図表4-24 相談チャンネル数と結婚に関する意識

今の自分の仕事や働き方について(%)

	まもなく結婚	すぐにでも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・相談チャンネルが2つ以上	6.3	9.4	56.3	16.1	2.2	9.8	224
男性・相談チャンネルが0～1つ	2.0	4.4	49.6	19.0	8.1	16.9	248
	$\chi^2=22.971, d.f.=5, p<.001$						
女性・相談チャンネルが2つ以上	8.2	11.4	56.3	16.8	0.9	6.5	352
女性・相談チャンネルが0～1つ	3.0	10.9	48.8	18.4	5.0	13.9	201
	$\chi^2=23.982, d.f.=5, p<.001$						

これからの生き方や働き方について(%)

	まもなく結婚	すぐにでも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・相談チャンネルが2つ以上	6.1	6.9	58.4	16.3	2.4	9.8	245
男性・相談チャンネルが0～1つ	2.3	4.9	48.0	20.9	6.2	17.6	306
	$\chi^2=20.423, d.f.=5, p<.01$						
女性・相談チャンネルが2つ以上	7.5	12.6	55.9	16.6	1.1	6.4	374
女性・相談チャンネルが0～1つ	5.1	9.4	51.8	16.5	3.9	13.3	255
	$\chi^2=16.546, d.f.=5, p<.01$						

人間関係について(%)

	まもなく結婚	すぐにでも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・相談チャンネルが2つ以上	6.3	7.6	56.3	18.4	1.9	9.5	158
男性・相談チャンネルが0～1つ	2.8	5.1	48.4	18.9	6.3	18.5	254
	$\chi^2=14.542, d.f.=5, p<.05$						
女性・相談チャンネルが2つ以上	7.3	12.0	55.3	17.7	1.3	6.3	300
女性・相談チャンネルが0～1つ	7.2	9.2	47.0	18.3	3.2	15.1	251
	$\chi^2=15.302, d.f.=5, p<.01$						

経済的な問題(お金のこと)について(%)

	まもなく結婚	すぐにでも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・相談チャンネルが2つ以上	5.9	8.9	54.8	16.3	5.2	8.9	135
男性・相談チャンネルが0～1つ	4.5	5.1	49.0	20.0	5.1	16.3	355
	$\chi^2=7.890, d.f.=5, n.s.$						
女性・相談チャンネルが2つ以上	11.2	14.7	49.2	17.8	0.5	6.6	197
女性・相談チャンネルが0～1つ	6.1	9.9	52.5	15.9	4.3	11.3	345
	$\chi^2=16.298, d.f.=5, p<.01$						

つまり、相談チャンネル数が多い相談ネットワークを有しているほど、結婚への志向が強いというわけである。これが文字通りに成り立っているのだとすれば、仮説的に考えたとおりに、自らの相談ネットワークにおいて多くのチャンネルをもつ人は、より多様な“世界”とつながりを有していて、自分の悩みを相談できるほどの信頼できる人間関係を複数の方向にもっており、そしてそのことから、結婚に関しても積極的な意識をもつようになっている

2つの相談チャンネルをもつケースも、「恋人」を除けば1つになるため、相談チャンネル数が「0～1」のカテゴリーに含めて分析することになるだろう。しかしそうしてしまうと、相談チャンネル数が1つ以下か2つ以上かの区別を重視する観点（注11参照）からは、その区別が曖昧になり議論全体の意味が変わってしまうことになる。そのような理由から、ここではあくまでも相談ネットワーク全体を扱うという判断をしている。

といえるのだろうか。そう結論づけるためには、これまでみてきた就業状況による相談ネットワークの違いを考慮する必要がある。つまり、仮に就業状況が相談ネットワークを規定しているのであれば、就業状況こそが結婚に関する意識を規定していて、相談ネットワークは擬似相関しているにすぎないという可能性もあるだろう。続けて、この点を検討しなければならない。

ここでは、就業状況をさらにクロスするというシンプルな方法で検討する。十分な数に達しないセルがあるため統計的検定は行わないが、就業状況でコントロールしてもなお、相談チャンネル数が0～1の場合と2つ以上の場合の間で結婚に関する意識に差が見られた6つの例を、図表4-25に示した。いずれも、相談ネットワークの相談チャンネル数が2つ以上の場合の方が、0～1の場合よりも結婚への志向が強いと解釈できる結果になっている¹⁵。

図表4-25 相談チャンネル数と結婚に関する意識：就業状況別

今の自分の仕事や働き方について(%)

	まもなく結婚	すぐにも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・正社員・チャンネルが2つ以	9.7	14.2	56.0	14.9	0.7	4.5	134
男性・正社員・チャンネルが0～1	3.4	7.8	58.6	14.7	5.2	10.3	116
女性・パート契約・チャンネルが2	6.9	11.8	55.6	18.8	0.0	6.9	144
女性・パート契約・チャンネルが0	3.2	8.5	48.9	19.1	6.4	13.8	94

これからの生き方や働き方について(%)

	まもなく結婚	すぐにも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・正社員・チャンネルが2つ以	9.8	10.5	57.1	16.5	3.0	3.0	133
男性・正社員・チャンネルが0～1	4.1	9.5	54.1	15.5	2.7	14.2	148
男性・パート契約・チャンネルが2	2.2	2.2	56.7	20.0	2.2	16.7	90
男性・パート契約・チャンネルが0	0.0	0.8	40.3	26.9	10.1	21.8	119

人間関係について(%)

	まもなく結婚	すぐにも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
女性・パート契約・チャンネルが2	6.8	12.1	57.6	17.4	0.8	5.3	132
女性・パート契約・チャンネルが0	9.1	9.1	43.6	18.2	4.5	15.5	110

経済的な問題(お金のこと)について(%)

	まもなく結婚	すぐにも したい	いずれは したい	しなくてもよ い	するつもりは ない	わからない	n(人)
男性・パート契約・チャンネルが2	4.0	4.0	54.0	18.0	10.0	10.0	50
男性・パート契約・チャンネルが0	0.7	1.4	38.9	26.4	6.9	25.7	144

これらの表から、次のように述べることができる。(1) 無配偶の男性正社員では、「今の

¹⁵ この6つの例について、結婚に関する意識を2件法に整理すると検定が可能になり、いずれも有意差が検出される(詳細は略)。すなわち、「まもなく結婚することが決まっている」「すぐにもしたい」「今はしたくないが、いずれはしたい」の3つを「結婚への志向あり」とし、「良い相手がいればしてもよいが、必ずしもしなくてもよい」「結婚するつもりはない」「わからない」の3つを「結婚への志向が弱い」とした2件法である。

仕事や働き方」および「これからの生き方」の悩みの相談チャンネルが多いと、結婚への志向が強い。(2) 無配偶の男性パート・契約社員では、「これからの生き方」および「経済的問題」の悩みの相談チャンネルが多いと、結婚への志向が強い。(3) 無配偶の女性パート・契約社員では、「今の仕事や働き方」および「人間関係」の悩みの相談チャンネルが多いと、結婚への志向が強い。(1)～(3)はいずれも正の関連であり、相談チャンネルが少ないと結婚への志向が弱くなると表現することもできる。

つまり、この(1)～(3)に関しては、就業状況の影響とは関係なく、相談ネットワークのあり方が結婚に関する意識を規定していると考えられることもできよう。したがって、すべての場合ではなく(1)～(3)の場合に限られるかもしれないが、相談ネットワークのあり方は結婚に関する意識を規定しているといえるのではないだろうか。いわば世界が広がれば、結婚への志向も高まるというわけである。

非典型雇用と結婚をめぐっては、非典型雇用であるために収入が低く、そのことが結婚時期の遅れにつながるというロジックが想起されるかもしれないが、ここでみたように相談ネットワークのあり方が結婚に関する意識を規定しているのだとすれば、これまでの議論に基づいて次のようにいえるかもしれない。すなわち、非典型雇用ないし失業・無職であることによって、相談ネットワークが限られたチャンネルしかもたないものにとどまってしまう、そのことによって結婚への志向も弱いものとなっている、という展開である。相談ネットワークが限定的で、いわば世界が広がっていかないために、結婚への志向も高まらないままになってしまうというわけである。非典型雇用と晩婚化・未婚化を結びつける論理に関して、低所得という回路で結びついているという可能性以外に、ソーシャル・ネットワークが限られているために結婚への志向も消極的になり、結果的に結婚可能性が低くなるという回路が存在する可能性が示唆されているといえよう¹⁶。

なお、(1)～(3)はいずれも悩みの存在を前提としているものであるが、悩みの有無自体が結婚への志向にとって問題なのではなく、そうした悩みがあったとしても、複数の相談チャンネルがあれば結婚への志向は高まるのであり、反対に悩みがあるのに相談相手が1つ以下のチャンネルに限られているとき、結婚への志向は高まらないということである。複数の相談チャンネルをもっていること——広い世界を生きていること——は、人間関係が発展・展開する可能性に対する肯定的な認識につながりやすいということなのかもしれない¹⁷。

¹⁶ 岩澤・三田(2005: 26)は職場結婚の衰退による出会いの場の減少を指摘する中で、職縁に代わる出会いの場として、友人などの私的なネットワークが活用される可能性にふれている。しかし本節の検討をふまえると、ソーシャル・ネットワークのあり方自体が一樣ではないために、そうした形でネットワークを活用することができない若者がいる可能性があり、かつそうした若者こそが結婚への志向が低くなっていることが考えられる。

¹⁷ また、(2)と(3)はどちらもパート・契約社員に関するものだが、男女間で結婚への志向と関連する悩みの種類が重なっておらず、相談ネットワークが及ぼす効果が男性と女性で異なっていることを示しており興味深い。仮に、ここでみてきた結婚への志向を、結婚に限定せずに、未来を肯定的にとらえる積極的な志向として拡大して解釈するならば、この(2)と(3)は、非典型雇用の若者

7. まとめ

以上の考察から得られた知見を、以下にまとめる。

第一に、若者にとって職場とは、単なる仕事の環境というだけでなく、さまざまな悩みについての相談ネットワークが供給される場としても機能している。したがって、失業ないしは無職であるということは、単に仕事をもたないというだけでなく、相談ネットワークの供給源をもたないということも含意している。

第二に、(第一の点としてふれたように) 非典型雇用ないし失業・無職であることは、相談ネットワークの重要な供給源である職場関係の人が自らのネットワークに加わりにくいこと——いわば、世界が広がりにくいということ——を意味する。その部分は、主に家族や友人によって代替される形になっている。無配偶の男性に関しては、そのような代替が十分でなく、「相手がいない」という形になる例も無視できない割合で存在している。

第三に、大まかな傾向の指摘にとどまるが、正社員よりもパート・契約の方が、そしてそれよりも失業・無職の方が、相談ネットワークのチャンネル数が1ないし0と少数になる傾向がみられる。非典型雇用や失業・無職であることによって、多方向的でない形の小規模で限定的な相談ネットワークが帰結されやすい。

第四に、相談ネットワークのあり方は、若者の結婚に関する意識を規定している可能性がある。限られた回路においてのみではあるが、相談ネットワークのあり方が多チャンネル的であれば——世界が広げれば——結婚への志向も高まる傾向があり、逆に、相談ネットワークが限られたチャンネルしかもたず狭いままであれば、結婚への志向も高まらないままになってしまう傾向がある。このことから、非典型雇用と晩婚化・未婚化の間に、ソーシャル・ネットワークが限られているために結婚可能性が低くなるという回路が存在する可能性が示唆される。

就業前の学生である限りにおいて、多くの若者のソーシャル・ネットワークは決して広がりをもつものとはいえないだろう。やがてさまざまな社会的経験を経ることで、新たな人間関係をつくりソーシャル・ネットワークが徐々に広がっていくという形が、多くの若者にとっておそらく一般的であり、そしてその社会的経験の最も主要なものが就業であると考えられる。

しかし以上の検討から浮かび上がるのは、非典型雇用や無業にとどまっていることは、ソーシャル・ネットワークが広がっていく契機をもたないまま時間を経っていくことになるという可能性である。親や兄弟姉妹、学生時代の友人などからそれほど広がらないままだとすれば、新たに生じてくるさまざまな悩みは、その中で果たして相対化されたり解消されたりするのだろうか。ごく限られた人たちの中でのみ過ごし続けることにより、どのような事態がもたらされうるのか、そして実際にもたらされているのかには注意する必要がある。

へのアウトリーチに際して、どのような悩みに照準して関わっていくか・その若者の性別によってどのような悩みに照準すべきかといった点に関するヒントとして解釈できるかもしれない。

そしてさらに、家族や学生時代の友人といった相談相手は、時間の経過に伴いつながりが強まることは実際には多くないだろう。親は年を重ねていき、兄弟姉妹も家を離れていくかもしれない。学生時代の友人も、それぞれの人生を歩む中で離れていくことは大いにありうるだろう。その意味で、そうした人たちの存在が、相談ネットワークにおいて比重が小さくなっていくことは不可避だといえる。それにもかかわらず、職場をはじめとする新たな場でネットワークをつくることができないのだとすれば、悩みを相談するチャンネル数の減少、さらには「相手がない」という事態も起こっていくと思われる。こうしたソーシャル・ネットワーク形成をめぐる困難の可能性を何らかの形で視野に入れることが、若者の包括的な移行支援においても求められているといえる。

今回の調査対象者は 29 歳までであるが、この若者たちが 30 代を迎えたときに、どのようなソーシャル・ネットワークの中で生きているのかについても考察が求められているといえよう。非典型雇用の広がりを見ると、30 代以上の世代におけるソーシャル・ネットワークのあり方も検討することも、本章では基本的なものにとどまった分析をさらに洗練・発展させることとともに、今後の重要な課題であるといえる。

文献

- 岩澤美帆・三田房美, 2005, 「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」『日本労働研究雑誌』535: 16-28.
- 内田龍史, 2005, 「強い紐帯の弱さと強さ」部落解放・人権問題研究所編『排除される若者たち』解放出版社, 178-199.
- 内田龍史, 2006, 「進路分化とモデル・ジェンダー・ネットワーク」部落解放・人権問題研究所編『フリーター選択の構造と過程』部落解放・人権問題研究所, 117-124.
- 沖田敏恵, 2004, 「ソーシャル・ネットワークと移行」労働政策研究・研修機構編『移行の危機にある若者の実像』労働政策研究・研修機構, 186-211.
- 玄田有史, 2002, 「書評 日本労働研究機構編『大都市の若者の就業行動と意識』」『日本労働研究雑誌』507: 81-83.
- 玄田有史・曲沼美恵, 2004, 『ニート——フリーターでもなく失業者でもなく』幻冬舎.
- 酒井正・岩松尚吾, 2005, 「フリーター以前とフリーター以後」樋口美雄・慶應義塾大学経営連携 21 世紀 COE 編『日本の家計行動のダイナミズム [I]』慶應義塾大学出版会, 139-162.
- 酒井正・樋口美雄, 2005, 「フリーターのその後——就業・所得・結婚・出産」『日本労働研究雑誌』535: 29-41.
- 永瀬伸子, 2002, 「若年層の雇用の非正規化と結婚行動」『人口問題研究』58(2): 22-35.
- 野沢慎司, 2005, 「未婚者の結婚意欲とパーソナル・ネットワーク」財団法人家計経済研究所編『若年世代の現在と未来』国立印刷局, 45-66.
- 樋口明彦, 2005, 「社会的ネットワークから見たフリーターの規定要因」太郎丸博編『フリ

- ーター調査 報告書』大阪大学人間科学研究科理論社会学研究分野, 51-60.
- 樋口美雄・酒井正, 2004, 「均等法世代とバブル崩壊後世代の就業比較」樋口美雄・太田清・家計経済研究所編『女性たちの平成不況』日本経済新聞社, 57-85.
- 堀有喜衣, 2004, 「無業の若者のソーシャル・ネットワークの実態と支援の課題」『日本労働研究雑誌』 533: 38-48.
- 堀有喜衣, 2006, 「若者のソーシャル・ネットワークの構造と機能」『自治体学研究』92: 22-27.